

『令和5年度刀根山支援学校運営協議会 第2回会議 記事録』

日 時：令和5年11月14日（火） 15:00～16:00

場 所：本校：多目的ホール

出席者：井村 修、山田 亨、齊藤 利雄（学校運営協議委員）、

平賀 健太郎（Zoom 参加）

高原 浩徳、笠岡 一行、洲本 昌悟、三澤 誠一、桑名 智寛、

船木 雄太郎、池上 真由、阿部 壮太、小山 輝雄（事務局員）

欠席者：川見 ゆか、宗戸 和幸（学校運営協議委員）

1. 学校長挨拶(職務代理 高原教頭)

本日は公務等のため、平賀様はオンラインでの参加、豊中市教育委員会の川見様と保護者代表の宗戸様は欠席となっております。

また、9月19日より高河原校長は体調不良のため2か月の療養の診断が出ておりましたが、さらに延長の診断が出おり、90日を超える休職となっております。校長不在の間、校長職務代理を努めさせていただいております。今後については、決定しておりません。

2. 報告・連絡

(1)各部署の教育活動の状況について

本校教育部：

夏休み中病棟からお聞きしたことを地域に広めるという意味合いで交流会を開催。来年度、在籍予定の児童生徒はおりません。昨今、地域で過ごす筋ジストロフィーの子どもたちが増えており、センター校としてサポートしていきたいと考えている。在籍している高等部3年生は1名であり、7月上旬はプログラミング教室に力を入れていた。今は文化祭に向けて頑張っている。また、本で行われたロボットプログラムコンテストの予選には、訪問教育部の小学部児童と一緒に出場し、全国大会進出を決めた。

訪問教育部：

まだ、感染症の影響はあるが、病室定員も制限がなくなってきており、児童生徒在籍数は以前の数に戻りつつある。現在、在籍数が増加傾向にあり、全教職員で対応していく。今年度、ボバース記念病院で事例研究会を実施した。さらに、国立循環器病研究センターでは、病棟と連携して研修会を実施することができた。また、訪問教育部として、2週間に1回のペースで、授業力を上げるための研修会を行っている。家庭でのトラブルを抱えて入院している子どももあり、今後とも各病院と連携していきたい。

精神分教室：

現在、大阪精神医療センターに入院する中学部生徒は、満床に近い状態である。在籍する児童生徒には、暴言や暴力への対応が必要な児童もあり、病棟と密な連携が必要である。

また、統合失調症や自閉症など配慮した授業が必要な児童生徒も在籍している。体育祭では、病棟スタッフにも参加いただきながら、体育館で全員リレーを行うことができた。学習発表会では、保護者や病棟スタッフ、地域校の教職員など、約 50 名に参観いただくことができた。「分教室の一日」と題し、教師主導ではない子どもたちだけで決めた演劇を行った。演者である子どもたち自身が、達成感を味わうことのできた会となった。しかし、翌日に荒れる子どももいた。早く退院したいという気持ちや退院後の行き場が決まらないなど、不安に思っていることが原因と考える。週一回クラブ活動を行っており、学習意欲向上のモチベーションになっていると考える。わになるガーデンでは、他の部署の子どもたちに代わり、植物の栽培等を行った。植物の栽培等を通して、他の部署の子どもと手紙のやり取りを楽しんでいる子どももいる。地域支援では、わになるシートが枚方市や高槻市、特総研の教職員などから、参考にしたいとの意見をいただいている。

阪大分教室：

まだ病棟では制限が厳しく、付き添いのない子どもは面会時間も限られている。そのため、移植待ちや小児がんなどで長期入院となる子どもが多く、さみしい思いをしてストレスを抱えている子どもが多い。治療の関係でベッドサイド授業の子どもについては、1人1台端末が普及もあり、朝の会や各授業で教室の子どもとつながることもでき、以前よりはさみしい思いをする子どもの気持ちも和らいでいるのではないかと感じている。今年度、二年ぶりに大阪教育大学の教育実習生がおり、実際に病気療養中の子どもたちの様子に触れながら、多くのことを学ぶことができたと思う。

滝井分教室：

昨年までコロナ対応病院であったが、今年は元に戻っている。保護者支援が必要なケースもあるが、どのように家庭に戻していくのかを病棟と連携して対応している。医療の教育的効果の数値的な実働性について、本校が開催する滝井セミナーにおいて、どのように医療が教育に対して貢献することができるのか考えていきたい。

枚方分教室：

在籍数は少ないが、病状の重い子どもが在籍している。新しいドクターが赴任したことに伴い、児童生徒の在籍数が増えることが考えられる。オンラインでのプラネタリウムやフライトシュミレーターなど、入院治療中は体験できないことを体験することができる場を計画・実施したいと考えている。今年度は、院内受験を予定している生徒が在籍しており、他部署での事例等も参考にし、スムーズな手続き・受験をすすめていきたい。

質疑応答

平賀 健太郎：

先日は、教育実習生がお世話になりました。精神分教室は、地域校では不登校であったなど、問題を抱えた子どもが多いと思う。学習発表会等で頑張った次の日に荒れるというのは、先の見通しへの不安でもあり、荒れてしまう子どもへのアプローチについては難しさを感じている。

(2) 令和5年度学校教育自己診断について

校長職務代理者：

本来ならば、「(2)の令和5年度 学校経営計画の進捗状況について」の話を先にするべきであるが、学校経営計画の中で達成目的をお話することもあり、「(3) 令和5年度の学校教育自己診断の実施について」内でお話する予定の指標が入っているため、(3)を先にお話しさせていただきたい。およそ従来通りであるが、今年度から児童生徒、保護者、病棟関係者に対して、「1人1台端末を効果的に活用できているか。」という項目を追加している。

質疑応答

学校運営協議会委員：

一般校より支援学校の方が以前から ICT を活用した授業実践ができていたと感じている。この項目は教育庁からの指示があったからなのか。

校長職務代理者：

「1人1台端末」のことを何らかの形で把握するよう指示があった。そのため、学校教育自己診断のアンケートに取り入れた。

学校運営協議会委員：

子どもによって病状も異なり、刀根山支援では一律にこの基準でこの内容を図るのは難しいのではないだろうか。表現を変えた方がよいと思う。

校長職務代理者：

表現については、今後検討していきたい。

(3) 令和5年度学校経営計画の進捗状況について

校長職務代理者：

「(2) 令和5年度 学校経営計画の進捗状況」について、今回お配りさせていただいた資料は進捗状況ですので自己評価はまだ文字としては記載していない。「3. 本年度の取り組み内容及び自己評価」からお話しさせていただく。

1. 切れ目のない支援の推進

- (1)「部署横断的に全体教科会を年間二回開催する」…今年度 1 学期7/21 に一回目、12/25 に2日目を予定している。
- 「昨年度より実施の研究授業会」をいずれかの教科で年1回以上実施する。」…初任、2年目の教員で実施予定。
- 「児童生徒の学校教育自己診断における『授業はわかりやすく楽しい』に対する肯定率95%を維持する」…アンケート実施中で回収を待つて報告したい。
- 「授業アンケート項目2『授業を受けてその内容が分かるようになりましたか』に対する全体平均 3.75 以上を目指す」…アンケート実施中で回収を待つて報告したい。
- (2)「教職員の学校教育自己診断における『コンピューター等の情報機器が授業などで活用されている』に関する肯定的評価 100%も目指す」…現在教員のアンケートを取っている最中である。
- 「パソコン交流会を年階位 1 回以上実施し、外部の参加者を 50 名以上招待する。」…7/8(土)に開催した。現地で 20 名。オンラインで 25 名の軽 45 名が参加し、概ね達成できたと考えている。
- 「外部講師を活用したプログラミング学習会を年間 2 回以上開催する。」…まだ実施できていない。
- 「全病連主催のロボットプログラミング大会に参加し、全国大会出場を目指す。」…本日、本校の高校生1名と訪問教育部の小2児童2名の合同チームが参加して予選が行われ、敗者復活戦で勝利して全国大会の出場が決まった。
- (3)「各市の研修に年間 12 講座以上参加する。」…刀根山支援学校では豊中市と枚方市の2つの市教育委員会に依頼して研修に参加させていただいている。現在のところ、豊中市で5講座6名、枚方市で9講座9名また枚方市では2回セットの参加で1講座のものもあるので、まだ残っているものもある。
- (4)「進路講和、校内実習、就労移行支援施設等の見学計8回」…本校の卒業生が来て、7回の進路の話を聞く機会があった。総合医療センター分教室でもが卒業生が来て話をしてくれた。就労移行支援施設の見学にも言っており、計8回は達成できている。
- (5)「分教室での児童生徒の授業等の様子や指導方法について、地域校や関係者に対し授業見学や必要に応じてリモートによる引継ぎ等を 15 回以上実施する。」…退院時カンファレンスは訪問教育部で4回、阪大病院分教室が6回、精神医療センター分教室が学校見学4回、ケース会議を含めると 100 回以上、滝井分教室でもケース会議は約 50 回行っている。

質疑応答

学校運営協議会委員：

本校の進路講話は、卒業生を呼んだのでしょうか。

校長職務代理者：

そうです。

学校運営協議会委員：

同じ人が7回来られてお話しされたのですか。

校長職務代理者：

そうです。

2. 専門性の向上と支援の継承

- (1)「WEB も活用し、4部署で4つのセミナーを実施する。総参加者数 700 人以上をめざす。」…本校は介助研修 33 名、筋疾患の相談会 16 名、滝井分教室の滝井セミナーはオンラインを含めて 400 名、阪大病院分教室の病気療養児の教育研修会は約 70 名、精神分教室のオープン病棟は 50 名が参加した。
- (2)「令和5年度の実践報告集を3月末までに作成し、本校 HP に掲載する。」…令和4年のものが9月に完成したばかりなので年度内に完成は厳しいかもしれない。
- (3)「後進育成を目指し、冊子を活用した校内研修を実施する。」…まだできていない。
「リーディングスタッフ相談回数 25 回を目指す。」…現在 17 回行っている。
「刀根山スポーツルール集の随時改訂を進める。」…今年はモルックを取り入れたい。
- (4)「研究協力等の成果を1本以上研究紀要に掲載する。」…まだ取り組みの途中である。
「近畿東海北陸地区病弱教育研究連盟大会もしくは大阪病弱教育連盟において実践発表を1本以上行う。」…大阪病弱教育連盟大会で1本発表予定である。
「先進校を3校以上訪問する。」…9/4に愛知県大府特別支援学校、9/22 に北海道手稲養護学校三角山分校の視察を行った。また 11/24 に静岡県天竜特別支援学校の視察に行く予定である。

質疑応答

学校運営協議会委員：

筋ジストロフィーに関しては、インクルーシブ教育の推進や医療の進歩で、現在は地域

の学校で過ごすことが増えている。が、だからこそ刀根山支援学校の果たすセンター的機能について、高い目標を掲げることができていると思う。(3)のリーディングスタッフの相談件数だが、相談は相手があってできるものであり、要請がなければ刀根山支援学校が頑張っても、目標が達成されないのは仕方がないのではないかと。違った観点の指標にするのはどうか。

校長職務代理者：

もちろん、相談を受けたことに対しては積極的に応えるようにしている。

学校運営協議会事務局員：

相談を待っているだけではなく、今年度の相談会においても、「気軽に相談してもらいたい」ことをアピールした。

学校運営協議会委員：

相談されたことにどう対応できるかという指標が大切だと思う。

3. 安心安全な学校づくり

(1)～(4)現在学校教育自己診断のアンケートを実施中である。

(5)「WEB 連絡会は毎月開催、運営委員会については完全に web 会議システムを導入し毎月開催する。」…夏休み中の8月を除いてできている。

「週一回の定時退勤日を設定し、時間外勤務月 45h 以上の教員をなくす。」…毎週金曜日を定時退勤日とし、かなり浸透してきたと思っている。

4. 令和6年度教科書採択について

刀根山支援学校は枚方市に精神分教室と枚方分教室の2部署がある。児童生徒の在籍数が一番多い部署のため、本校では枚方市採択の教科書を使用している。小学部は令和6年度より改訂、中学部は令和7年度より改訂が決まっている。

3.その他

なし

次回は令和6年2月 13 日(火)15 時より